

浄泉寺報

第27号
2021年
報恩講



報恩講のお荘嚴の整った浄泉寺本堂

報恩講に想う

浄泉寺住職 望月廣三

報恩講は何といつても、宗祖親鸞聖人の法事です。法事と云えば私たちは亡き人の三回忌とか七回忌とか、あるいは五十回忌というような先の先まで供養をします。それには亡き人への想い、言葉では云い表わせようのない深

いものがひめられているはずですよ。

この気持ちは親鸞聖人に対しても異なるものではありません。親鸞という人を知らない人でも、真宗門徒として身につけている何かがあるはずですよ。たとえば、寺では毎月仏教講座がひらかれていることを知っていたり(真宗以外の寺では定例の「法座」はめったにありません)、霊供養を積極的に説いたりしないことなど、知っています。

宗祖の親鸞さまは“念仏一つ”で救われると教えられました。学問も修行も要らない、と。これは、この念仏は、信じるほかに救われないという畢竟依(最後の最後の依り拠)に目ざめさせる念仏だからです。人間に迷いのない人生など、存在しません、この事があれば生きられる、そんな依り拠を見つけれられる教えが浄土真宗の

念仏です。悲しい事や苦しい事であっても、自分の信じられる人生を生きるからこそが最も大切であり、人として生まれた意味と価値があるのでしょうか。



浄泉寺本堂の親鸞聖人絵像

浄泉寺からのお知らせ

● 春のお彼岸 ●
お参りの日程は、三月上旬におハガキにてお送りします。

● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

若坊守のひとりごと

二年生になる娘は少し体が小さめです。近頃は心ない言葉でそのことをからかわれることもあるようです。そんな日の夜は、私に打ち明けながら泣いたり悩んだりもし、親としては心が痛くなります。

私が「意地悪な相手の言葉は受け取らなくていい」と言っていると首を傾げながらも、自分なりに傷付かずに済むやり方も模索するようになりました。勇気を出して相談してみたり、時には言い返したり、娘との試行錯誤は続きました。

ある日、娘が嬉しそうに「私のチャームポイントは細くて少し小さいところだよ」と言ってきました。娘が、辛い想いをしながらも体が小さいという自分の現状を受け止め、今の自分で満ち足りているという自己肯定感を持ち合わせていたことに驚きました。

娘の姿を見てみると、自己肯定とは自分を肯定も否定もせず、ありのままの自分の姿に気づくことなのか、娘から大事なことを教わった気がしています。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏ないぶつ（仏壇）に座る ②⑤ ～ 自分を見つめるおみがき ～

「磨いても磨いても完璧にきれいにならん。人間の煩惱みたいやなあ」

京都の本山でおみがきを一緒にしていたご門徒さんの口から聞いた言葉です。報恩講を前に、浄泉寺では今年も「おみがき」を行いました。コロナの中ではありますが、対面に座ることは避け、マスクをしながらのおみがきでした。

「おみがき」とは、真鍮しんちゆうでできた仏具ぶつぐを研磨剤けんまざいで磨き上げることです。皆さんのお内仏ないぶつ（仏壇）の仏具は真鍮でしょうか？中には金メッキの仏具もありますので、注意が必要（金メッキの仏具を研磨剤で磨いてはいけません！！）ですが、真鍮製の仏具の場合は、ぜひ皆さんのお宅



でも年忌法要の前や新年を迎える準備の時など、何かの節目にぜひ「おみがき」をしてください。

研磨剤はいろいろありますが、浄泉寺では「ピカール」という研磨剤を使っています。古布等に研磨剤をつけてまず磨きます。ある程度磨けてきたら、古新聞でさらに磨くと仕上がりの光具合がよくなります。細かな溝のある仏具であれば、古い歯ブラシや竹串で溝を磨くようにします。

磨いても磨いても完璧はなく、放っておくとどんどんくすんでいく…。まさに人間の煩惱が知らされるようです。（浄泉寺若院・釋垂世しゃくあせい）

令和4年(2022年)年忌表

ご法事おんぎ（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和3年(2021年)亡
三回忌	令和2年(2020年)亡
七回忌	平成28年(2016年)亡
十三回忌	平成22年(2010年)亡
十七回忌	平成18年(2006年)亡
二十五回忌	平成10年(1998年)亡
三十三回忌	平成2年(1990年)亡
五十回忌	昭和48年(1973年)亡

～ 浄泉寺からご門徒の皆さんへのご依頼 ～

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃事業へのご懇志をお願いいたします。

来たる2023年、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要が本山・東本願寺で勤まります。この法要は、かけがえのない仏教の教え（念仏）を私たちに伝えてくださった親鸞聖人の御誕生と、親鸞聖人が『教行信証』を著して本願念仏の教えを頭かにされたことを慶び、私自身が「人と生まれたことの意味」をたずねる大切な機縁としてお勤めします。

そして、法要を機縁として、教えを次世代に伝えるための様々な取り組みのため、本山から懇志の依頼がきています。すでに納入くださった方も多数おられますが、全てのご門徒の皆様からのご懇志（1口1万円）の協力をお願いいたします。 [2022年末迄にお納めください。]



<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町4-3-43
ホームページ <http://jyosenji.asei.info>